

つながり

今年も最後の月になりました。政治の混迷、雇用の不安定、鶴田浩一さんの「今の世の中右も左も真つ暗闇じやございませんか」は、あの歌が流行した時代以上に現実的です。

文明の発達というのはそのようなものでしよう。文明の主人はそれを創り出した人間でなければなりません。いつもそのためには文明を人間が監視できる必要があります。

しかし今の社会では行きつくところまで行つてしまふことがあります。失敗しても埋め合わすね。行きつくところまでいかないとそのような失敗に気づけばまだ良い方であります。しかし失敗に気づかない状態が生まれてきます。失敗しても埋め合わせるための便利なものがすぐに出されます。百年前に自動車が発明され「何て便利なものか」と、誰しもが自動車を欲しがりました。しかし歩くことがなくなり、運動不足により足腰が弱くなつてきています。今度はその埋め合わせにスポーツジムが盛況になります。

何事も人間の思いを超えて文明が暴走をしているようです。東日本大震災により「絆」「つながり」が声だかに言われます。しかし現実の中はそれとは逆に進んでいます。自分が自分の都合の良い人とは「つながり」を持ちたがりますが自分に反する人や異なる考え方を持つ人は「つながり」を絶つてしまします。情報網の発達はその事に大いに貢献してくれます。人と会わなくても情報は得られます。結婚しなくとも、食事を作らなくてもスーパー・マーケットに行けば何でも出来上がつて売られています。以前包丁のない家庭が話題になりましたが、現実として「金さえあれば」「きずな」や「つながり」のような「わづらわしさ」は必要ないのです。本来「つながり」は相手の気持ちを推し量りその事によつて自分の世界を広げ私自身の心が豊かに成長していくことでした。しかし今の日本は自分のみが生き延びる事で一杯で「他人のこと」などかまつてられなくなつていています。

それは悲しいながら人を信頼出来なくなつていています。すべてが「カネ・カネ・カネ」で動いているようです。すべてが効率主義になつています。

余裕のない息が詰まる思いがします。私たちは人権とか言論とか言いながら強い者には弱くなり弱い者には強気に出るようになり、今問題の「いじめ」の構造が子供ではなく大人の世界にも広がっているように思えます。仏教は「我あるゆえに彼あり 彼あるゆえに我あり」、互いに、もたれ合い寄り添いながら生きられない自分のありようを基本とします。

「つながり」はこのことを意味します。「つながり」を持ちましょうというよりは「つながり」がなければ一時も今ここに私は存在できず生きてもいけないのでです。仏教は一人で生きていくなどというのは傲慢そのものと說きます。自分勝手な生き方と「つながり」を感じて生きていくのとが、本当に喜びを感じられるのはどちらなのでしょう。

モノが溢れ本当に私がほしいモノはなんだつたのかもわからなくなつていています。来年は自分が眞實に望んだ生活、人生はどのようなものだつたのか改めて考えたいものです。